平成二十八年 (丙申) 四月二十五日

臆病者には一抹の不安は拭ふ能はず、 者の發言を紹介し、 遠隔にて、 との聯動に就きて論ず。 多の地震研究者のほぼ共通見解にして、 斷層同うする地震の發生に就きては豫測可能なり。 あるは常なるも、 前震と呼び、 に是程の遠距離に 動を憂ふるは自然の感情なるも、 地震あり。 十六日に大分にありしは誘發地震なるべ 加ふるに、 四月十四日熊本にてマ 今後同 知 世界中の地震約九割は環太平洋火山帶にて生ずとする米科學組織國家地理協會關係 の地震學者に訊ぬるに、 遠隔誘發の可能性を疑ふは時期尚早との米地質調査所專門家の意見を紹介する 複數 我國氣象廳、 後に來るより大規模なるを本震と呼ぶ、 正確なる發生場所、 の斷層の 「前震」「本震」は事後的にのみ判別可なり、 ては地震誘發の可能性低きは素人にも容易に想像し得るも、 熊本地震とエクアドル地震との關聯性をも暗示す。 ・グニチュ・ 日本とエクアドルとの距離は一萬五千四百四十五キロメー 近きは地震 當 初前者を「本震」とするも「前震」と改め、 ト 6.3 一部の外信、 日く 時刻、 の相 將來の研究に期待するより外な 同一斷層中に於て先に生ずる、 し。 我國の人熊本地震と來るべき南海トラフ地震の聯 互聯動あり得べ の地震發生す。 更には地震の規模を 斷層相互に遠隔なれば 熊本地震と同時期に生ぜしエクアドル地震 其が 但し、 兩者の間にも本震の後にも餘震數多 同十六日更にマグニチ 「本震」と修正せらる 斷層異にする地震の豫測は難し 其を誘發地震と云ふ。 と。 「豫知」する能はざるも、 小生、 誘發の より小さき地震を 後者を「本震」と 斷層を異に 更に 可能性低きは數 問る、 小生 ユ トルの 故に F 0) 然ら 7.2 0

過去十年 地震直前に於ても關東地方にて感知し得る地震あり。 東日本大地震を機に同地域に於ける發生數は一層增す。 向にあり得べ 然れども、 十六十七世紀の て

斷續 のみならず周邊地域 の平均發生頻度は、 的 先づ懸念すべきは、 の地震はマグニチュード三程度に留まるも、 に生ずる地震に留意し是に備ふべきは言を俟たざるも、 實際 朝鮮に於てはマ 朝鮮半島に於ては、 の地殼構造自體弛緩し、 其の前の十年に比べ三倍増す。 猶も同 、グニチュ 一斷層或は近距離にての地震誘發なり。 既に二十年程前より地震増加 ード七程度の地震多發した 周邊地域全體に於ける地震發生は增 更に、 韓國氣象觀測當局の資料を見るに 『朝鮮王朝實錄』 三年前には實に年九十三件を 東日本大地震以 同大地震に る形跡あ 傾向にある中 等歷史資 降、 より日 東北地方 本 本

今は 及防災對策等に關する情報發出に就きて、 偏に今次地震の早期に收まるを祈るのみなるも、 熊本地震、 限定的なる科學的 氣象廳始め行政當局側に 地震豫測、

(平成二十八年五月十四日受附